

令和4年度 中央区立月島第二幼稚園 自己評価報告書

学校名：中央区立月島第二幼稚園 所在地：中央区勝どき1丁目12番地2号
 園長名：早川 幸
 幼児数：101名 学級数：5 教員数：12名 職員：1名

教育目標 心身ともに健康で主体的に生活する子どもを育てる。
 げんきな子ども やさしい子ども
 かんがえる子ども がんばる子ども

1 重点目標の達成状況及び取組状況

重点目標1 健康で明るい生活を送るための基礎力を育む。

評価項目：発達段階に応じた基本的な生活習慣や態度の確立を図る。

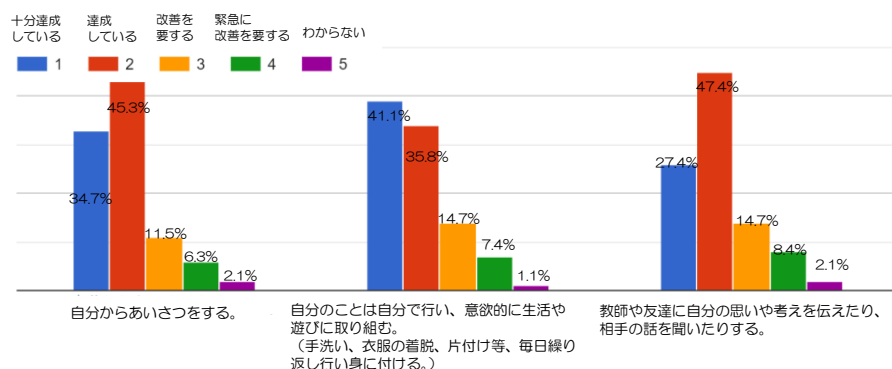
評価指標①自分からあいさつをする。

②自分のことは自分で行き、意欲的に生活や遊びに取り組む。

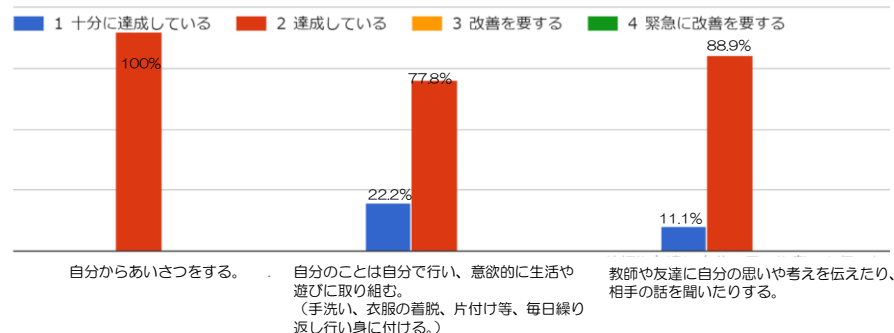
(手洗い、衣服の着脱、片付け等、毎日繰り返し行い身に付ける。)

③教師や友達に自分の思いや考えを伝えたり、相手の話を聞いたりする。

<保護者>



<教員>



- ①では、保護者、教員ともにプラス評価が80%を超えている。しかし、どちらも「達成している」の評価が多くなっている。昨年度の「いつも明るく、気持ちのよいあいさつをする」という評価指標が、今年度は「自分からあいさつをする」となり、気持ちのよいあいさつをすることはできるが、「自分から」という点では課題があるためであると考えられる。自分からあいさつをすることで、より心地よく感じることを、幼児が実感できるよう働きかける必要がある。
- ②では、保護者のプラス評価は76.9%であるが、「改善を要する」「緊急に改善を要する」と評価している保護者もいる。一方、教員では「達成している」が100%である。幼児が意欲的に生活や遊びに取り組む様子が保護者に伝わるよう、伝え方を工夫していきたい。
- 昨年度も課題となっていた③については、保護者、教員ともに「十分に達成している」よりも、「達成している」の割合が多くなっている。また、「改善を要する」「緊急に改善を要する」と答えている保護者もいる。自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする大切さを伝え、それが経験できる機会を意図的に作っているが、十分な成果を得られていない。家庭とも連携しながら、子どもたちの話を丁寧に聞き、安心して自分の思いを表現できるように、また話を聞いてもらう喜びを感じられるようにしていくことで、友達に対しても「思いを伝えよう」「話を聞こう」とする気持ちをもてるようにしていきたい。

重点目標2 自ら環境に関わりながら、遊ぶことの楽しさを十分に味わえるようにする。

(トライ！チャレンジ！月二っ子の育成)

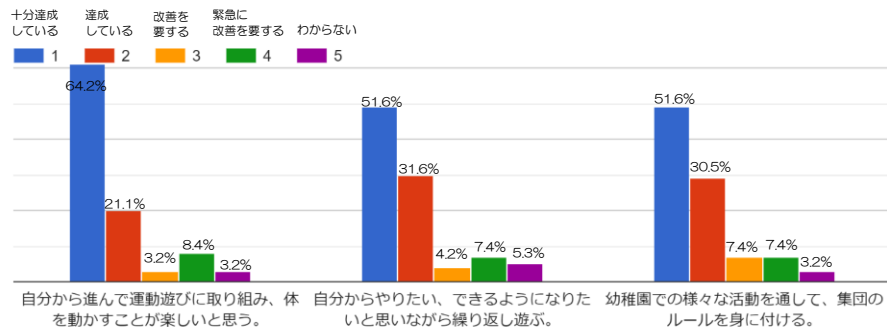
評価項目：一人一人の力を引き出しながら、楽しく体を動かし、たくましい心と体をつくる。

評価指標①自分から進んで運動遊びに取り組み、体を動かすことが楽しいと思う。

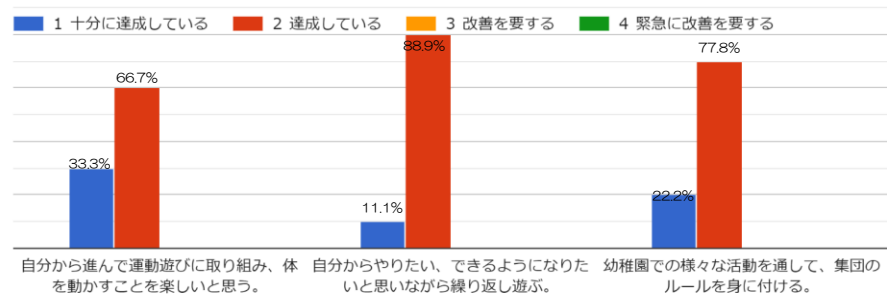
②自分からやりたい、できるようになりたいと思いながら繰り返し遊ぶ。

③幼稚園での様々な活動を通して、集団のルールを身に付ける。

<保護者>



<教員>



- ・重点目標2では、全体を通して80パーセント以上のプラス評価になっている。
- ・①は、プラス評価が85%以上であり、「十分達成している」と評価している保護者が一番多い項目である。昨年度までの園内研究で運動遊びをテーマとして力を入れてきたことで、保護者から継続して評価されていると考えられる。しかし、教員の評価では「十分達成している」が昨年度の50%から33.3%に減少している。昨年度までに学んだことを取り入れながらも、そのときの幼児の姿を受け止め、環境を工夫しながら、幼児が進んで遊びに取り組み、体を動かす楽しさを感じられるようにしていきたい。
- ・②で「改善を要する」「緊急に改善を要する」の評価をしているのは年少児・年中児の保護者であり、「できるようになりたいと思いながら繰り返し遊ぶ」ということが、年少児、年中児では難しいと感じているのではないかと考えられる。各学年なりにできるようになりたいという思いをもって取り組んでいる姿を伝えていく。また、年長児の様子も折に触れて伝え、幼稚園全体ではどのように育っているかを理解していただけるようにしていく必要がある。
- ・③については、教員の「十分達成している」の評価が減少している。そこで、集団のルールを身に付けられるような活動を教員一人一人が意識的に取り入れるとともに、幼児が経験している姿を適切に捉えていくようにする。また、「改善を要する」「緊急に改善を要する」と回答している保護者もいるため、ルールのある遊びから経験していることや、様々な活動の中で自分たちからルールを決めたり、守ったりしていることなどを伝え、さらに保護者の理解を得られるようにしていく。

重点目標3 幼児の生活や心情を豊かにし、思いやりのあるやさしい心を育む。

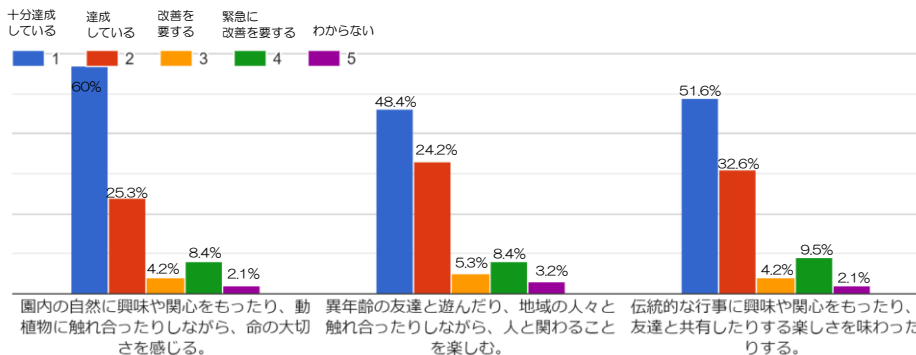
評価項目：園生活に興味や関心をもち、主体的に行動する幼児を育てる。

評価指標①園内の自然に興味や関心をもちたり、動植物に触れ合ったりしながら、命の大切さを感じる。

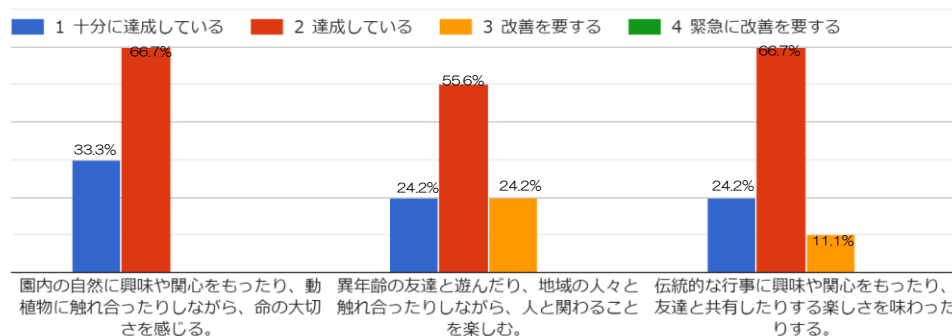
②異年齢や友達と遊んだり、地域の人々と触れ合ったりしながら、人と関わることを楽しむ。

③伝統的な行事に興味や関心をもちたり、友達と共有したりする楽しさを味わったりする。

<保護者>



<教員>



- ①では保護者のプラス評価が85%となっている。「豊かな心を育む～自然との関わりを通して～」を園内研究のテーマとし、園内の自然環境を改善したり、自然に触れる活動を意識して取り入れたりしてきた。そのことを降園時の連絡やルクミーを通して保護者に伝え、幼稚園公開でご覧いただけるようにしたことで、保護者に理解していただけた結果であると考えられる。教員では100%プラス評価であるものの「達成している」の割合が多いのは、さらに工夫できると考えているからである。今年度の取組を活かしながら、より自然との関わりを深められるようにしていく。
- ②で、教員に「改善を要する」と評価する割合が24.2%あるのは、地域の方をお招きして行事を開催することができなかったためである。保護者の評価もプラス評価が72.6%と、他の項目に比べてやや低い。手紙を書く、地域の施設に向くなど、行事にお招きする以外でも地域の方々との交流を深められるように、取り組み方を工夫していきたい。
- ③については、「昔遊びの会」が今年度も開催できなかったことから、「改善を要する」と評価した教員がいた。②同様、行事の開催以外で経験が得られるよう工夫していく。また、保護者の「改善を要する」「緊急に改善を要する」の評価は、年少児・年中児の保護者がしている。「友達と共有する楽しさを味わう」ということは、年少児・年中児には難しいこともあるため、重点目標2—②同様、年長児の様子を折に触れて伝え、幼稚園全体ではどのように育んでいるかを理解していただけるようにする必要がある。

2 重点目標以外の自己評価における達成状況及び達成のための取組状況

<保護者による全体評価について>

- 全体的に、プラス評価が95%以上である。しかし、「よくあてはまる」と「あてはまる」の割合では、前年度より「よくあてはまる」の割合が下がっている。その中で、「幼稚園は、幼児が体を動かして遊ぶことや自然に触れる経験に進んで取り組んでいる」の項目は、前年度72.8%から今年度76.8%と「よくあてはまる」の割合が高くなっている。園内研究で、前年度の運動遊びの研究、今年度の自然との関わり方の研究に取り組み、工夫を重ねてきたことが、保護者にも理解されていると考えられる。

- ・「幼稚園は家庭への連絡や情報提供に努め、すすんで子育て支援を行い、家庭とともに幼児を育てる体制づくりをしている」では、プラス評価が92.7%であり、「あまりあてはまらない」「わからない」と答えた保護者が他の項目よりもやや多い。自由記述には、降園時に雑談的にでも子どもの様子を伝えてほしいという意見があったため、今まで以上に、保護者が話しかけやすい雰囲気を作れるようにしていく。

<教員による全体評価について>

- ・全体的に「十分に達成している」「達成している」の評価がほとんどである。しかし、「行事」「保幼小の連携」「特区别支援教育」「本園の特色」では、改善を要すると回答した教員がいる。
- ・「行事」では、「クリーンデー」「電車遠足」など、今年度計画していたが社会状況により実施できなかったものがある。中止する場合には、保護者も理解できるよう丁寧に説明していくこと、そして、実施する行事で得られる経験を代替できるような内容を取り入れられるよう工夫するようにしたい。
- ・「保幼小の連携」では、前年度まで中止されていた小学生との交流を行うことができた。小学校への不安を取り除いたり、期待を高めたりするためにとてもよい活動なので、次年度も取り組んでいきたい。保育園との連携については、幼児同士の交流ができなくても、就学前施設として保幼小連携日でお互いを理解し合い、連携していけるようにする。
- ・「特別支援教育」については、教職員で共通理解する機会の少なさが課題としてあげられた。月に1度の園内委員会を設け、教職員で共通の理解をもって支援ができるようにしていく。
- ・本園の特色「地域を「心のふるさと」とし、親しみや愛着の気持ちを育む」では、感染症予防のため「かちどき橋」の清掃を実施できなかったため、「改善を要する」と答えた教員が77.8%であった。地域散策、橋の資料館見学、行事の際に協力くださる施設（月島警察署・月島清掃局・月島保健センター・勝どき郵便局など）の方々との交流、幼稚園前の花壇に花を植える活動など、「かちどき橋」の清掃以外にも地域を大切にする気持ちを育めるようにする。

3 今後の改善方策

○重点目標1

- ・自分からあいさつをすることで、より心地よく感じることを、幼児が実感できるよう意識的に働きかける。
- ・「思いを伝えよう」「話を聞こう」とする気持ちをもてるよう、家庭とも連携し、子どもたちの話を丁寧に聞くことを大切にする。

○重点目標2

- ・運動遊びについて昨年度までに学んだことを取り入れながらも、幼児の実態を適切に捉え、幼児が楽しみながら体を動かせるよう指導・環境を工夫する。
- ・様々な活動の中で集団のルールを身に付けられるように、活動内容を考え、意識的に取り入れるとともに、幼児が経験している姿を捉えていく。

○重点目標3

- ・園内の自然環境を改善したり、自然に触れる活動を意識して取り入れたりする。
- ・行事に協力してくださった方に手紙を書く、地域の施設に出向くなど、行事にお招きする以外でも地域の方々との交流を深められるように、取り組み方を工夫する。

○その他、全体の評価から

- ・各学年が経験していることや育ちを、降園時やルクミーで伝えるとともに、他学年の育ち、特に年長児の様子を折に触れて伝え、幼稚園全体の子どもの育ちを理解していただけるようにする。
- ・中止した経験と同等の経験ができるようになど、行事の取り組み方を工夫し、必要な経験をえられるようにする。
- ・今まで以上に保護者に積極的に声を掛け、保護者が話しかけやすい雰囲気を作る。
- ・月に1度の園内委員会を設け、教職員で共通の理解をもてるようにする。
- ・地域を大切にする気持ちを育めるよう、行事の取り組み方を工夫する。